

## 2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	風荷重小委員会	主 査 名：河井宏允 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：和田 章 主 査 名：神田 順
設 置 期 間	2008 年 4 月 ~ 2012 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>・(2008 年度)建築物荷重指針の改訂に向けたロードマップの検討を行う。とくに、CFD 耐風設計法、外装材の耐風性能評価、竜巻等の突風に対する耐風設計のあり方、仮設構造物を含めた設計用再現期間の設定方法、設計資料の電子提供の方法などについて、討議を通じて今後の方向を探る。</p> <p>・2009 年度以降は、新しい耐風設計法を導入する際の具体的な課題を抽出し、建築物荷重指針の改訂に向けた準備を行う。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>河井宏允(京都大学)・奥田泰雄(建築研究所)・浅見 豊(大成建設)・植松 康(東北大学)・大熊武司(神奈川大学)・大竹和夫(竹中工務店)・片岡浩人(大林組)・片桐純治(泉創建)・菊池浩利(清水建設)・近藤宏二(鹿島建設)・谷口徹郎(大阪市立大学)・田村哲郎(東京工業大学)・田村幸雄(東京工芸大学)・西村宏昭(日本建築総合試験所)・吉江慶祐(日建設計)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>・CFD 耐風設計法 WG：CFD での予測精度と設計上必要な精度の関係を明らかにする。CFD で耐風設計を行う場合の特徴を明らかにし、設計体系としての新規性を吟味する。CFD による耐風設計を実際に行い、その妥当性を明らかにする。</p> <p>・外装材耐風性能 WG：2008 年に纏めた建築物の耐風設計資料「建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価」を踏まえて、外装材の耐風設計ガイドラインの検討を行う。建築物荷重指針の改訂に向けた準備を行う。</p> <p>・耐風設計体系検討 WG：海外の風荷重規定との比較検討結果等を踏まえて、竜巻等の突風に対する耐風設計のあり方、仮設構造物を含めた設計用再現期間の設定方法、設計資料の電子提供の方法などについて討議し、今後の建築物荷重指針の上での取り扱いの方針案を作る。</p>	
2008 年度予算	380,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s27/">http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s27/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1 . 建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価に関するシンポジウム 155 名 資料：建築物の耐風設計資料 建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1 .CFD 耐風設計法 WG、外装材耐風性能 WG、耐風設計体系検討 WG を設置し、ほぼ予定どおりに進んでいる。
委員会活動の問題点・課題	